

長崎県軟式野球大会の運営について

2021年(令和3年)以降の県大会から適用

1. 参加について

- (1) 県大会は、9名以上参加すること。
- (2) 支部代表チームを必ず出場させねばならないということはない。
- (3) 組合せ抽選後に棄権しないこと。棄権した場合は主管支部に参加料を納入すること。
- (4) 一旦棄権を申し出たチームは、いかなる場合でも復活出場はできない。
- (5) 県代表を得たチームは、必ず全国あるいは九州大会に出場すること。
- (6) 全国あるいは九州大会の日程が順延となり、棄権したチームは次年度の同大会予選の段階から出場できない。

2. 開会式について

- (1) 県選手権など開会式が実施される大会では、開会式に9名以上参加すること。
- (2) 天皇賜杯、高松宮賜杯、西日本大会などの中央大会は、10名以上参加しないと棄権とされる。

3. 試合方法について（学童、少年を除く）

- (1) Aクラスの大会を除き、各種県大会の準決勝戦までは7回ゲームとするが、天皇賜杯準決勝戦及び各種県大会決勝戦(代表決定戦)は9回ゲームとする。但し日没、降雨のおそれがある場合、または対戦する両チームが希望すれば7回ゲームとすることができる。
- (2) コールドゲームは、得点差による場合、7回ゲームは5回以降7点差とし、9回ゲームは7回以降7点差とする。5回(7回)を完了して日没や降雨等で試合が継続できない場合も適用する。
- (3) 5回(7回)を未完了の場合はノーゲームとせず特別継続試合とする。但し、特別継続試合での得点差によるコールドゲームもある。
- (4) 大会運営上、県連盟主催の大会(Aクラスの大会を除く)並びに県民体育大会において、二回戦までは1時間30分を超えて新しいイニングに入らない。同点の場合はタイブレーク方式で決着をつける。
- (5) 前4項の適用に当たっては、原則的に5回を完了していなければならないが、大会運営上、県連盟特別規則として「5回に到達していなくても、新しいイニングに入らない。」を設ける。
- (6) 時間の区切りは、1時間30分に到達した時点で先攻チームが勝っている場合はその裏の回まで行う。後攻チームが勝っている場合、先攻チームの攻撃途中のときはその回の終了までとする。
- (7) 各種県大会の準決勝戦までは7回を終わって同点の場合は8回から直ちにタイブレーク方式を、天皇賜杯準決勝戦は9回を終わって同点の場合は10回からタイブレーク方式を適用する。決勝戦(代表決定戦)は、競技者必携に記載する連盟特別規則を適用する。

【連盟特別規則】

延長戦

9回を完了して同点の場合は、健康維持を考慮し、次の方法により勝敗を決する。

- ①延長戦は12回(最長3回)まで、マスターズ及び全日本シニア大会は9回(最長2回)までとする。
- ②試合開始後、3時間(マスターズ及び全日本シニア大会は2時間30分)を経過した場合は、新しい延長イニングに入らない。
- ③前記①～②を終了しても同点のときは、タイブレーク方式を行う。

(8) タイブレーク方式の攻撃は継続打順で行う。選手の交替は攻守とも認められる。

【Aクラスの大会】

- (9) すべて9回ゲームとし、準決勝戦(リーグ戦方式を含む)までは9回を終了して同点の場合は10回から直ちにタイブレーク方式で決着をつける。
- (10) コールドゲームは、得点差による場合、7回以降7点差とする。7回を完了して日没や降雨等で試合が継続できない場合も適用する。
- (11) 7回を未完了の場合はノーゲームとせず、特別継続試合とする。但し、特別継続試合での得点差によるコールドゲームもある。
- (12) 決勝戦は、競技者必携に記載する連盟特別規則を適用する。

4. 学童、少年の試合方法について

- (1) すべて7回ゲームとする。
- (2) 投手の投球数制限を設ける。
 - ①1人の投手は、1日の投球できる数を下記のとおりとする。

学童部：70球以内(3年生以下60球)

少年部：100球以内
 - ②試合中70球(少年部は100球)に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
 - ③ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
 - ④タイブレークとなった場合、1日70球(少年部は100球)制限内で投球できる。
 - ⑤牽制球や送球とみなされるものは投球数としない。
 - ⑥投球数の管理は、大会本部で行う。
 - ⑦1日70球(少年部は100球)以内であるならば、試合をまたいで(ダブルヘッダー)投球することができる。また、投手がほかの守備位置についても再び投手に戻ることができる。
- (3) 5回以降7点差がある場合は、コールドゲームとする。
- (4) 準決勝戦・決勝戦を除き1時間30分を超えて新しいイニングに入らない。同点の場合は投手の投球制限を遵守の上、2回を限度にタイブレーク方式で決着をつける。なお勝敗が決しない場合は抽選とする。
- (5) 準決勝・決勝戦は7回を完了して同点の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレーク方式を続行する。
- (6) タイブレーク方式、日没等の取扱い是一般と同様とする。